

# ふるさとのお話



## 照天姫のかがみ石

### ●室町時代のラブロマンス

原田妙善寺の西、ヘルスセンター鑑石園の庭の中に今もなお湧き続けている池には、遠く室町時代にまつわるラブロマンスが語り伝えられています…。

常陸国（今の茨木県のあたり）小栗城主判官満重は応永30年（1424年）関東管領足利持氏の大军に城を囲まれました。

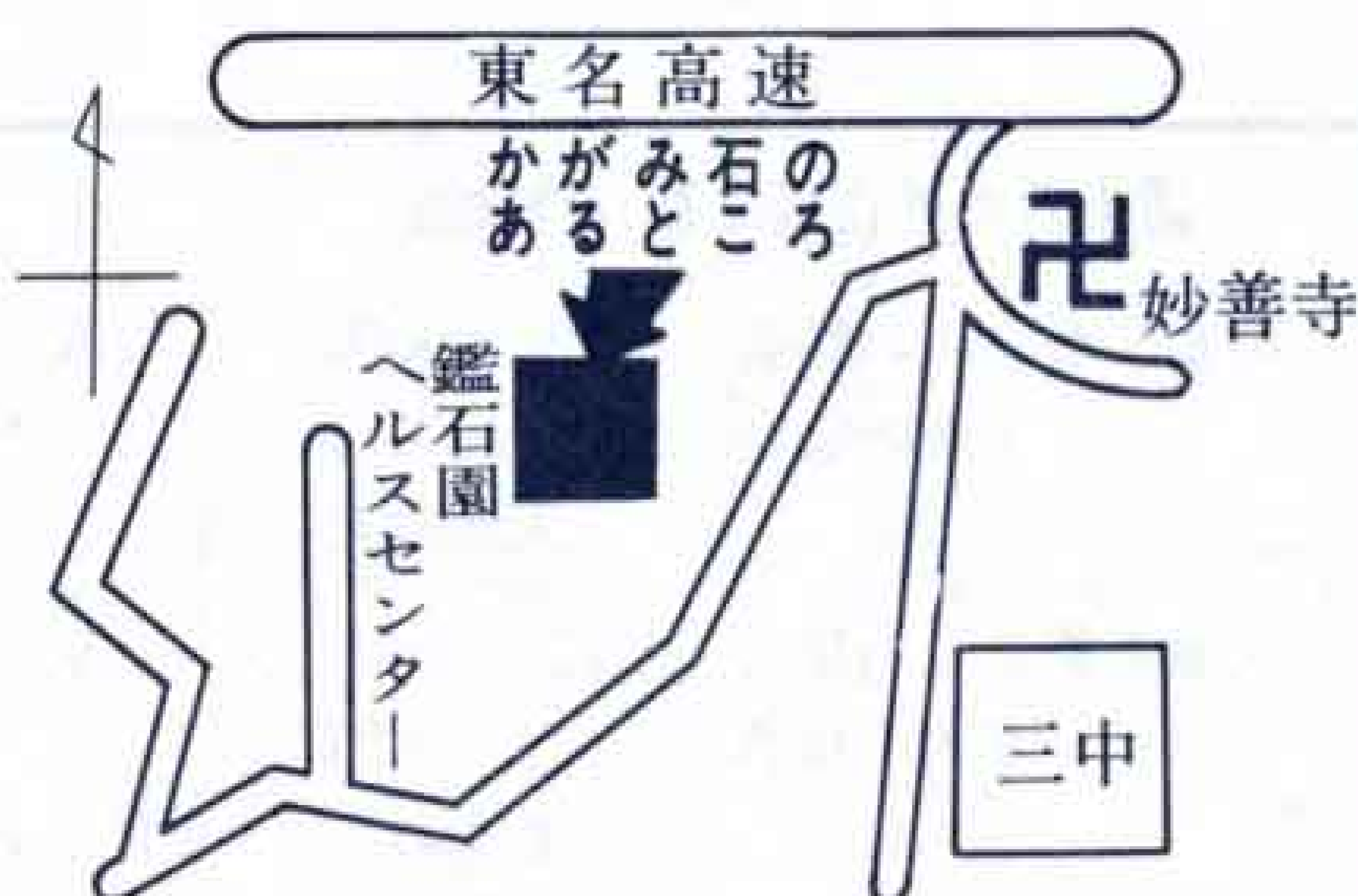
落城のとき、わずかの家来をつれて城をのがれた満重は途中、相模国（今の駿東郡小山町）の豪族横山大膳のところへ一時身をよせました。

ある晩、大膳の策略によって家来を毒殺され、満重もまた危機を迎えました。しかし、大膳の館にいた照天姫に助けられた満重は、名馬鬼鹿毛に乗って姫と共に逃げたのです。

そのころ、原田の妙善寺に大空禅師という徳の高い僧がいました。

息も絶えだえの満重と姫は禅師の手あつい看護に一命をとりとめることができました。

絶世の美人照天姫は、この妙善寺にかくれている間、清らかな湧き水の中にある石に姿をうつして、身な



りをととのえたということです。

以来「かがみ石」といわれるようになったのです。

やがて満重は小栗城を再興し照天姫とむつまじく暮しました。

### 湧き水をみながら…



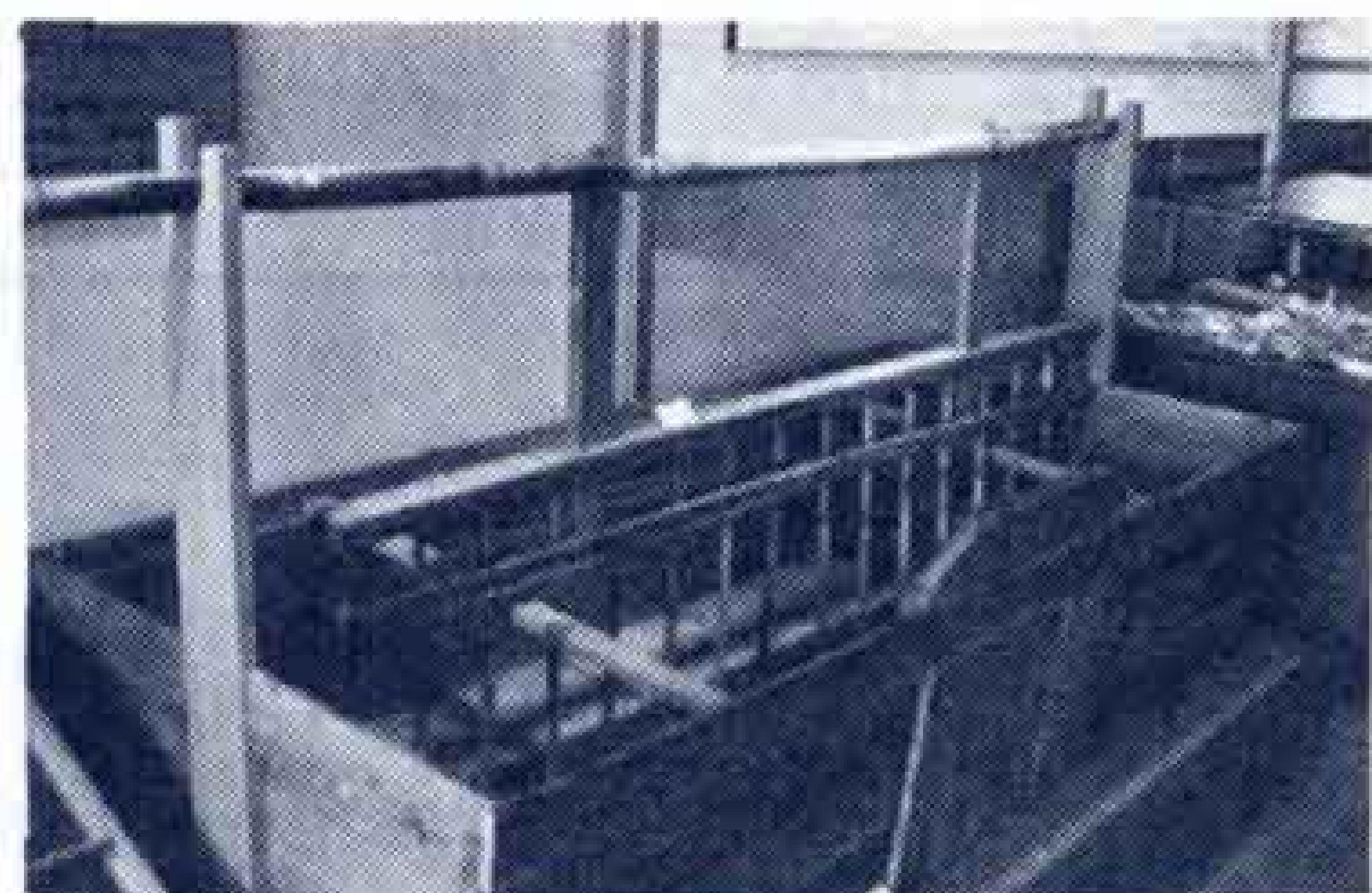
鑑石園  
西村よしえさん

この鑑石園の庭には湧き水の池が6つあるけど、かがみ石のある池は昔から干上がったこともなく湧き続けているんだよ。池の中の黒くて丸い石が水鏡になったんだね。

近頃は若い人も来るようになったよ。きれいな湧き水をみながら昔をしのぶのもいいものだと思うよ。

## 市立博物館 展示物

### 紹介



手漉和紙の製造に使われた道具です。水を入れたこの漉舟の中へ繊維とネリ（トロアオイの根からとったどろどろの液）を入れ、よくかきまぜて和紙の原料をつくりました。

江戸時代から昭和の20年代まで、和田川沿に多く見られました。



原田製紙第一号機

明治28年、原田製紙では製紙技術の研究を重ね、日本で初めて機械抄和紙を始めました。

この円網式抄紙機は、当時原田製紙で使われた機械に、なるべく近いものになるように研究して復元したものです。（縮尺約2分の1）



応援団もハッスル

## 表紙のことば

秋晴れの9月29日、鷹岡中学校（生徒数1,041人）は、「心に残る運動会にしよう」をスローガンに秋季運動会を開きました。

生徒は、日ごろきたえた演技を校庭いっばいに繰り広げ、若さを爆発。この日、一番の呼び物は、男子生徒全員による組体操。リーダーの合図により、人間ブリッジ、人間扇、人間ピラミッドを披露。見事な演技に、見学者から盛んに拍手が送られました。